

キャラクター名	プレイヤー名
氷雨 昂 (ひさめ すばる)	

シンドローム	オルクス サラマンダー		ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	中学三年生
	オプション		年齢	15	性別	男
覚醒	忘却	衝動	恐怖		初期侵食率	34 %
出自	天涯孤独	経験	記憶喪失		邂逅	雲雀弄 聖(ひばじり ひじり)

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	2	0	0			2	行動値	8
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	8
精神	2	1	0	3		6	戦闘移動	13
社会	3	0	0			3	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	4		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達	3	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
		ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費	
黄金領域	P	N			
世鳴理 ねつき	P 慕情	N 侮蔑			
雲雀弄 聖(ひばじり ひじり)	P 友情	N 嫉妬			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	12	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ディクタトル	1	3	セットアップ	至近	自身	自動	Dロイス	
効果: そのラウンドの間、オルクスエフェクトの攻撃ダメージに+10. 放心を受ける。シナリオLV回まで。								
揺るぎなき心	1	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 暴走以外のバッドステータスをLV+1個回復する。								
氷の回廊	1	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 飛行状態で戦闘移動。移動距離を+LV*2m								
コンセントレイト: オルクス	2	2	メジャー	-	-	-		
効果: C値-LV (下限値7)								
鋼の顎	2	3	メジャー	視界	-	対決		
効果: 攻撃力+7の射撃攻撃。装甲無視。同エンゲージ攻撃不可。シーンLV回まで。								
氷の塔	5	4	メジャー	視界	範囲(選択)	対決		
効果: 攻撃力+LV*3の射撃攻撃。同エンゲージ不可。								
成長促進	1		メジャー	視界	シーン(選択)	自動		
効果: 氷の植物を生成し、成長させる。								
地獄耳	1		メジャー	至近	自身	自動		
効果: 領域内で起きている情報はすべて手の内に入ってくる。								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「光栄に思うといい。この僕、辰宮町支部のナンバー2、「ヴァイス・ヴァルト」の美麗・圧倒的・壮絶の白銀世界を目に出来ることを！」
「まったく無能だな貴様らは。やむを得まい、僕が説明してやるう」「まったくアホだな貴様らは、仕方が無い、僕も同行してやるう。感謝しろよ？」
「背の高さを弄るのをやめろ！僕はエリートだぞ！？」

学ランを来た小柄な男子中学生。性格は高慢で、尊大な態度を取りがち。しかし背が小さく、人付き合いはいいため、周囲から怖がられてはいない。
ねつきや他の支部員から何も認められていないのに、勝手に「辰宮町支部ナンバー2」を自称している。無駄に偉そう。なんなら支部長のねつきに対しても偉そう。
しかし「仕事のできるエリートだ」という自覚があるので仕事の指示には(なんやかんや言いつつも)素直に従う。
ねつきの指示で中学校に通っている。

氷でできた樹木を自分の体内や周囲の領域から生成し、氷の根や枝を操る能力を持つ。
本気で能力を解放した場合、(<ディクタトル>使用時)周囲に白銀の輝きを放つ“氷の森”が現れ、巨大な氷の大樹たちが敵を押し潰す。

風花と聖とは中学生になってから知り合った。
【過去】
幼少期、物心つく前から“氷の森”と呼ばれる空間に神隠しに遭う。
“氷の森”は生きた氷の樹木が密生する異空間である。「神隠しに遭い、迷い込んで来た人間は二度と暖かさを得られぬまま凍死してしまう」と昔話や都市伝説の中で語られる場所だ。UGNではその存在と名前は確認しており、レネゲイドウィルスが関係していると推測し、調査を進めているが詳しいことは未だに分かっていない。
昂も神隠しに遭った。しかし、彼は凍死しなかった。代わりに、樹木達に「氷の種子」を体に埋め込まれ、両親や自分の生まれとといったすべての記憶をなくし、現世に戻された。そうして何も分からないまま彷徨っていたところをねつきに保護された。
“氷の種子”は昂に“氷の森”を意図した場所に繋げ、その樹木を操る力を与えた。代償に、種子から生えた「氷の根」に体中を蝕まれることとなる。